



学習・進学における財政支援

足立 志津子 議員

平成29年度まで実施していた奨学金・入学準備金貸付制度の復活を。現状では考えていない。相談があれば、国の高等教育の修学支援新制度等を案内する。

水泳授業の在り方

命を守るための知識・技術の獲得を。小・中学校では実技指導を通じて水難事故の危険性等を指導している。

着水泳の実施を。実施している。

介護保険料の引き下げを

応能負担の原則に立ち、介護保険料多段階化をさらに推進すべき。市の見解は。

これまでと同様に被保険者の負担能力に応じた保険料を設定すること



FICEC 国際子どもクラブ

外国ルーツの子どもへの日本語学習支援

を基本とする。市では準備基金の活用のほか、事業の取り組みが評価され、国や県からの交付金があり保険料の上昇抑制になっている。

現状は。

市の日本語適応指導員、県の日本語指導加配教員を配置し、学校外では公民館やNPOの日本語教室などを開設している。また、日本語ボランティアスタッフの養成もしている。



低空飛行する自衛隊輸送機

低空飛行問題は

塚越 洋一 議員

健康保険証廃止した場合の市の対応

資格確認書の申請ができない重度障がい者や高齢者などのケースは。市が職権で交付する。

事務の煩雑化による事務量の増大と財源及び職員への影響は。まだ具体的な検証は行っていない。

障がい者入所施設の市内への設置促進を

入所の現状と今後の見通しは。現在、69人が入所している。待機者は現在15人だが、増える見通しがある。

社会福祉法人等による市内への施設建設に対する財政支援は。

国・県の補助金申請を支援していく。



児童生徒に豊かな学びの場を

小林 憲人 議員

福祉と司法の連携強化を

通級指導教室において、教員不足が顕在化してきている。対応を。長期的な視点で計画的に育成、配置ができるよう県と協議を進めていく。

現在策定中の第3期地域福祉計画の中に、福祉と司法の連携についての詳細を載せていくべきでは。

計画の見直しの中で、権利擁護や成年後見等を充実させる方向で検討している。

花火のできる場所の確保を

東京23区内の公園であっても、手持ち花火ができる場所がある。花火のできる場所の確保やルールづくりを。公園、緑地、緑道等、市が保有している場所での花火は禁止となっている。本市内で花火をするにはどうしたらよいか、調査研究をしていく。



歩いて元気健康の推進を

本市や各市町で、歩くことでポイントが貯まる制度が始まっている。近隣の連携や情報交換を。

現時点で、計画はない。有効であれば検討していきたい。



パートナーシップ・ファミリーシップ制度の導入を

床井 紀範 議員

同性カップルの親属関係を公的に認証する制度の導入を検討すべき。市の見解は。

県内のファミリーシップの導入自治体は5月1日現在で26市町である。県内のパートナーシップの交付実績は218組であるが、ファミリーシップの交付実績は1組である。

パートナーシップ制度の理解や啓発を促進する。その上で、ファミリーシップ制度を研究する。



多様性を応援

市内の老朽化したマンションの対応

総戸数、総世帯、総人口における共同住宅の持ち家の割合は。共同住宅の持ち家の割合は約25%である。また、総世帯と総人口における共同住宅の持ち家の割合は、約15%である。

マンション管理組合の実態把握は。アンケートを実施した。今後はアンケートをまとめ、連絡体制等を構築する。

相談・支援体制は。市は毎月第2火曜日に、県マンション管理士会と連携し、マンション管理の相談会を実施している。

また、県マンション居住支援ネットワークに参加し、必要な情報提供を行っている。



高齢者、障がい者に優しい上福岡駅前整備を

近藤 善則 議員

すでに東上線沿線では、新河岸駅、鶴ヶ島駅、坂戸駅に、駅前トイレが設置されている。上福岡駅前東西口に高齢者、障がい者が使いやすい多目的トイレもあるが公共トイレが必要ではないか。その設置場所として、東口階段下と西口の市管理地はどうか。

開かずの踏切の解消は

上福岡駅南側の開かずの踏切の解消方法は。沿線市町の首長で構成する東武東上線改善対策協議会において、東武鉄道に要望活動し、連続立体化についても毎年要望している。



近隣で新設された多目的トイレ

視察報告

議会運営委員会「議会活動の活性化」を調査

議会運営委員会で「議会活動の活性化」を所管事務調査として、8月2日及び3日の日程で、富山県氷見市議会及び射水市議会を視察しました。

氷見市議会では、全国的にも珍しい議会監視・監査機能の充実に向けた基本条例や、オンライン委員会やICTを活用した議会活動などを確認した。次に射水市議会では、県立高校での議会報告会を予定するなど、特色ある議会報告会を開催している。また、議場での新しい採決システムなど、参考になる方策が多くあった。

意見交換も活発に行うことができ、議会活動の活性化につながる有意義な調査となった。



氷見市議会を視察